

塚田力

中国領アルタイの古儀式派： 国連難民高等弁務官事務所資料を中心に

はじめに

ロシア正教の古儀式派とは、17世紀に行われたロシア正教会の典礼改革に反対し、古来からの儀礼を守ることを主張した人々である。

彼らは独自の信仰と生活様式のために、主流派教会や国家権力によって異端として弾圧され、後のソビエト革命以降も抑圧を受けた。彼らはロシア帝国内の周縁部へ、そして諸外国へと移住していった。

本稿における中国領アルタイとは、現在の中華人民共和国新疆ウイグル自治区イリ・カザフ自治州アルタイ地区にあたる地域とする。アルタイ山脈の南麓に当たり、ロシア連邦のアルタイ共和国、カザフスタンの東カザフスタン州、モンゴル国の西部諸県と隣接する。南部のジュンガル盆地には砂漠が広がり、北部では農耕や遊牧が可能である。伝統的にはモンゴル族やカザフ族を中心とした住民が多数を占めてきたが、新中国成立後、漢族や回族などの入植も見られる。現在も人口の過半は漢民族以外の諸民族によって構成されている。

中国領アルタイへ移住したロシア系住民の多数派は古儀式派であった。本稿では古儀式派住民の中国領アルタイ地区への移住史を概観したい。

1 ロシア系住民の移住

1755年、この地域を支配していたジュンガル部は清朝に征服され、以後この地域は清朝に編入され、ロシア帝国と国境を接することとなった。

一方、現在のロシア連邦アルタイ地方とアルタイ共和国、カザフスタン共和国北東部に「石の民(каменщики)」と「ポーランドの民(поляки)」と呼ばれる古儀式派の人々が現れた。

「石の民」は18世紀前半ころから、宗教的迫害や兵役などから自由意志で逃れてきた。彼らはウバ川、ウリバ川の上流と、ブフタルマ川、ベラヤ川流域に隠れ住んだ。1791年、彼らはヤサクを納める異教徒としてロシア帝国の構成員となった。

一方、「ポーランドの民」は1760年代以降に元老院の勅令によってポーランドのヴェトカ(現在はベラルーシ共和国領)から強制的に移住させられた人びとである。ヴェトカには迫害を逃れ多くの古儀式派が移住していたが、エカテリーナ2世時代に強制的に国内に連れ戻されシベリアに移住させられたのである。彼らは農業のみならず森林伐採やロシア帝国での工場での労働、鉱山採掘の義務も負っていた¹。

¹ 宮崎衣澄「シベリアの古儀式派」『中京大学社会科学研究所叢書16 シベリアの歴史と文化』成文堂、2005年、228-231頁。

この両者が中国領アルタイの古儀式派の主な源流となったと思われる。

中村喜和氏の著作でよく知られているように、18世紀にはシベリアの古儀式派の間で「日本国白水郷」というユートピアのうわさが広まった。彼らの一部は日本を目指して、または豊かな土地を目指し、政府の干渉を嫌って出国していった。流布していた白水境への道は、ブフタルマ川源流域から中国領アルタイ地区北部を経由するものである。

1827年にはハナス湖から清朝官憲により追放された集団があり、1860年にはロブ・ノールに移住しようとして失敗した一団の悲惨な運命が知られている²。

一方、定住に成功したグループもあった³。

民間伝承によると、1830年ごろに古儀式派がカザフ族のタイジ(清朝の爵位のひとつ)カラウスマンに使者を送り、酒、テンの毛皮、金貨などを贈呈し、ピョートル大帝による迫害について語り、中国に避難させてくれるように依頼した。カラウスマンはこれを許し、500余人をアルタイ地区のブルチン県のホンムーとチョンフルに割り当てて、以下のような簡単な取決めをした。

- ・ 居住区を決めた後は、勝手に移動しない。
- ・ 毎年一度、ホブド参贊大臣に納税する。
- ・ 放牧、耕作、狩猟、養蜂などの正業につく。

彼らの人口は、次第に増加したので、さらにハナスとハイリュウタンの2ヶ所の居住区を開いた。また、少数の者は伊犁と塔城の山地へ移住した。

彼らの居住区はみな山奥にあり、農業または牧畜業に従事していた。養蜂、漁業、狩猟は彼らの重要な副業だった。大麦とうまごやしを植え、牛、馬、羊を飼い、養蜂を行い、テンを捕り、松の実を集めていた。彼らの勤勉さと、町から大変離れているために官吏に干渉されることが大変少なく、税金も労役もなかったことにより、生活は比較的豊かだった⁴。

上記のホンムー、チョンフル、ハナス、ハイリュウタンの他に、ココトハイにもロシア系住民からなる村落があった。彼らの入植した地域は、アルタイ地区の北部を占め、遊牧生活を送るカザフ族とモンゴル族(ソビエト連邦式の民族区分に従うとトゥバ族に分類される人々であるが、中国政府は彼らをモンゴル族に分類している)が住民の大多数を占めていた。現在でも、ログハウスが利用され、ロシア式サウナも普及している。主流派の正教会も古儀式派教会も以前から存在しなかった⁵。

その後、1911年には承化寺(現在のアルタイ市)にロシア領事館が建設された。

1912年からアルタイ地区は漢族の軍閥の支配下に入る。1912年から1917年にかけてロシア軍が承化寺、ハバフ、ブルチンなどに進駐した。ロシア側がブルチンに埠頭を建設し、イルトゥイシ河にザイサン湖までの貨物船航路を開設した。このころ、ロシア人農民300余戸

² 中村喜和『聖なるロシアを求めて[増補版]』平凡社、2003年、144-165頁。

³ 邓波『俄罗斯族简史』(乌鲁木齐:民族出版社,1990年),11頁。

⁴ 邓波『俄罗斯族简史』,11頁。

⁵ Igor Rotar, "XINJIANG: Linked religious practice and state control levels?" *Forum 18 News Service* http://www.forum18.org/Archive.php?article_id=428

がチョンフルなどに入植した⁶。

1930 年ごろにはソビエトでの農業集団化の影響により、古儀式派だけではなく、移住者が増加している。

1933 年には甘粛省から回族の軍閥馬仲英の部下馬赫英が承化(現アルタイ市)を占領。漢族、モンゴル族、ロシア族の絶滅を目指して虐殺を行った。夏にかけて、ロシア族農民が組織した自警団が、ウルムチから派遣されたアルタイ宣撫使ボルハンと協力しつつ馬赫英部隊と戦闘した⁷。現在キルギスタンに住む古儀式派教徒の Ф. Голкодерьяの回想によれば、古儀式派も多数が虐殺された。古儀式派も戦闘に加わった。彼らへの襲撃の直前に、面識のあるイスラム系の住民から襲撃予定を知らされ、事前に逃亡するといったこともあった⁸。

1945 年、アルタイ地区は東トルキスタン共和国の支配下に入った。1947 年カザフ族アタマンのウスマンはウルムチの国民党政府の支援を受けつつ、三区経済委員会(東トルキスタン共和国の後継勢力)の軍事勢力と衝突し、戦闘状態に入った。

1949 年にこの地区は中華人民共和国の支配下に入るが、ウスマン及び後継勢力による反乱などのためその後も戦闘行為は断続的に継続し、50 年代前半まで情勢は不安定だった。

1956 年以降、人民合作社の結成などの社会主義改造が行われた。古儀式派も炭鉱と木材伐採場での労働を課され、拒否した場合は逮捕されたという。大躍進運動も遂行され、土法炉による製鉄が強制された⁹。これらの政策を嫌ったため、そして出国の機会が増えたため、彼らの移住が盛んになった。

国連難民高等弁務官事務所の援助やソビエト連邦からの招請を受け、彼らの大半は 1960 年ごろまでに世界各地へと出国していった。香港を経由し、アメリカ、カナダ、オーストラリア、ブラジル、ボリビア、アルゼンチンに向かった者たちと、ソビエト連邦各地に帰還した者たちがいた。特にフルシチョフは、処女地開墾運動のために積極的に帰還を促した。

1943 年の統計によれば、ブルチン県とハバフ県に合わせて 295 戸、1200 余人の古儀式派がいたとされる¹⁰。翌年の新疆省警務所(警察)の統計では、ブルチン県とハバフ県にはあわせて 1935 人のロシア系住民がいたとされる¹¹ため、この地域のロシア族の過半は古儀式派であったと考えられる。現在でも、トルコ系の人々はアルタイに住むロシア系住民をキルジャークと呼ぶ。キルジャークとはケルジェネッツから移住してきた無僧派の古儀式派教徒たちを指す言葉であるが、アルタイ地区では古儀式派に限らずロシア系住民全般を指す言葉となっている。

⁶ 包儿汉『新疆五十年 包儿汉回忆录』(北京; 中共文史出版社,1994 年),33 页。彼らには古儀式派以外も含まれる。

⁷ 包儿汉『新疆五十年 包儿汉回忆录』,200 页。

⁸ Гошкодеря Ф. История России и судьбы хрмстиан. Часть первая
http://www.miass.ru/news/ostrov_very/index.php?id=7&text=86

⁹ Естафьев Михаил. Русский хозяин в Орегоне
<http://www.pereplet.ru/text/estafiev12jun02.html>

¹⁰ 邓波『俄罗斯族简史』,12 页。

¹¹ 新疆维吾尔自治区民族事务委员会编『新疆民族辞典』(乌鲁木齐; 新疆人民出版社,1995 年), 877 页。

古儀式派以外を含めたロシア系住民の人口は、統計によれば1944年時点でアルタイ地区総人口83844人中の2203人(承化県203人、フーユン県57人、ブルチン県1657人、フーハイ県6人、ハバフ県278人、青河県0人、ジムネイ県2人)、1949年は総人口5万6211人中の1912人、1953年は総人口9万7219人中の3384人、1964年は総人口20万9289人中の67人、1982年は総人口46万7859人中の91人、1986年は総人口48万3396人中の174人、1990年は総人口51万1689人中の373人、1995年は総人口54万9867人中の379人、という変遷をへてきた¹²。彼らの人口の1981年統計以降の急激な増加は、自然増だけではなく民族籍の変更によるものが大きい。

現在、彼らはアメリカのオレゴン州、アラスカ州、カナダ、ブラジル、ボリビア、旧ソビエト連邦各地などに居住している。

現在のロシア系住民の大半は正教徒である。筆者が1998年に現地調査したところ、アルタイ地区に居住する古儀式派は確認できなかった。ごく少数の古儀式派はオレゴン州からイリ・カザフ自治州の伊寧市などに帰還している。

2 国連難民高等弁務官事務所とは

1951年の「難民の地位に関する条約」では、難民を「人種、宗教、国籍、政治的意見やまたは特定の社会集団に属するなどの理由で、自国にいと迫害を受けるかあるいは迫害を受ける恐れがあるために他国に逃れた」人々と定義している。

20世紀初頭、第一次世界大戦やロシア革命などで、多くの人々が故郷を追われた。こうした事態に対処するため、1921年、北極探検で有名なノルウェーのフリョフ・ナンセンが国際連盟から初の「難民高等弁務官」に任命され、難民の保護や援助に活躍した。その後の変遷をへて1951年に設立されたのが、国連難民高等弁務官(以下 UNHCR)事務所である。UNHCRは人道的な立場から、国籍国の保護を失った難民に「国際的な保護」を与え、同時に食料・医療・住居などの援助を行うこと、そして難民問題の解決をはかることを任務としている¹³。旧ソビエト連邦および隣接地域でも彼らは活動しており、難民全般に関する多くの資料が現在も作成・保管され続けている。

UNHCRは1951年ごろから香港でも活動し、中国からの難民を保護してきた。香港の難民の大半は漢民族であったが、欧州人、特にロシア系の住民も中国各地から難民として香港へ到来した。UNHCRの香港での職員配置は小規模であり、赤十字国際委員会(International Committee of the Red Cross)、世界教会評議会(World Council of Churches)、欧州移住政府間委員会(Intergovernmental Committee for European Migration)、トルストイ財団(Tolstoy Foundation)などの諸団体による活動の調整や資金の供給などがその主要な活動であった。

¹² 阿勒泰地区地方志编纂委员会编『阿勒泰地区志』(烏魯木齊: 新疆人民出版社, 2004年), 157-158頁。

¹³ http://www.unhcr.or.jp/ref_unhcr/unhcr/index.html

UNHCR は中国国内のロシア系住民に関する調査、彼らの香港での保護、難民資格の判定、彼らのアメリカ、カナダ、オーストラリア、ブラジル、ボリビア、アルゼンチン、フィリピン、タイなどの諸国への移住や移住先での定住支援、さらに移住先からの再移住のあっせん、そしてそのために必要な身分証やビザの発給など多岐にわたる活動を組織しロシア系住民の保護を行ってきた。

3 チベットを經由した集団

中国の新疆省からやってきたキプリコン・チャーノフらのグループの運命は、人間の忍耐力と不屈の意志に関する驚くべき物語である。「ソビエトの楽園」から立ち去るべく旅をはじめた当初、彼らは約 400 名から成っていた。しかし、ヒマラヤ山脈、ゴビ砂漠、チベットをへて、インドのカルカッタでトルストイ財団が彼らの援助の要請を受けた時点で、彼らの人数は 24 名にまで減少していた。

彼らのニュースはヨーロッパやアメリカで大きく報道された。ヒマラヤを越える際に彼らを個人的に援助していたアメリカの副領事が命を落とした。彼らは「世界の天井」たるアルタイ山脈でロシアと中国の共産主義者たちと闘ってきた。彼らは共産主義者たちを明白な敵とみなしている。

彼らはジュネーブとブレーメンを經由し、1952 年にアメリカに到達した。ブレーメンでのアメリカへの最終的な出国手続き中に、さらに一名が担架の上で亡くなった。彼らはニューヨーク州ロックランド郡に定住し、経済的に成功し良く同化している¹⁴。

これは UNHCR の文書庫に保存されているトルストイ財団からの報告に記載されていた一文である。このアメリカの副領事とは、迪化(現ウルムチ市)のアメリカ領事館の副領事マッキナン¹⁵を指していると思われる。

キプリコン・チャーノフはアルタイ地区に居住していた古儀式派で、1947 年 10 月に「共産主義者たち」から逃れるべく、アルタイ地区を旅立った¹⁶。

当時のアルタイ地区では、それまで実効統治を行っていた東トルキスタン共和国の後継勢力と、そこから離反し独自に徴税を開始したカザフ族の指導者ウスマンの軍が戦闘を繰り広げていた。ウスマンにはウルムチを直轄支配していた国民党から支援が行われ、東トルキスタン共和国側にはソビエト政府の支援があったとされる。

チャーノフたちは東トルキスタン共和国の後継勢力である三区経済委員会を共産主義者

¹⁴ UNHCR Archives, fond 11[Records of the Central Registry], box number 4/47(2) Tolstoy Foundation INC. 1939-1968.

¹⁵ Douglas Seymour Mackiernan (1913-1949)。彼の生涯は、Ted Gup, *The Book of Honor: Covert Lives and Classified Deaths at the CIA* (New York: Random House, 2001)、に詳しい。

¹⁶ Scott Moss "A History of the Tolstoy Foundation 1939-1989"
http://www.tolstoyfoundation.org/pdfs/tf_history_s-moss_.pdf

によるものと認識し、逃亡を開始している。

彼らは戦闘と食料の調達に苦しみつつ放浪した。

その後彼らはチベット入りし、9ヶ月間ラオスに滞在した後チベットへ戻り¹⁷、1951年にカルカッタでトルストイ財団に保護された。

チャーノフらのグループの移動経路は彼らだけの特異なものである。移住開始時期も1947年と早く、中国共産党の影響力が及ぶ以前から三区経済委員会を共産主義者とみなしていた点で興味深い。彼らが共産主義者を忌み嫌っていたことがうかがわれる。

まとめ

中国領アルタイ地区の古儀式派の移住史とそこでの生活の経緯について概観してきた。

18世紀に現れた「石の民」と「ポーランドの民」と呼ばれる古儀式派の一部は、19世紀になると『白水郷』や自由な土地、様々な負担から逃れるべく現在の中国領アルタイにあたる地域を目指し、一部は定住に成功した。

彼らの人口は1000人以上に達し、ロシア系住民の過半を占めていた。彼らは主に中国領アルタイ地区北部の僻地の、自ら開墾した村落で居住していた。

彼らの生活は平穏ではなく、しばしば虐殺の対象にされ、彼ら自身が戦闘行為に動員されることもあった。

彼らの多くは1947年以降、西側諸国や、ソビエト連邦に出国していった。1960年ごろには大多数が出国し、1980年ごろまでには全員が出国したと思われる。

新疆の伊犁地区、中国東北部の三河地方、ハルビン、ロマノフカ村などに居住していた中国の他の地域の古儀式派たちと比して、彼らは戦闘が多発する危険な生活を送っていたこと、イスラム教徒に囲まれて生活しており漢民族との接触が少なかったこと、ソビエト連邦との距離が近いこと干渉を受けやすかったことなどを指摘できる。

1947年10月、キプリコン・チャーノフに率いられた古儀式派の集団は、中国共産党の影響力が及ぶ以前にもかかわらず移動を開始し、苦難に満ちた道のりの末にチベットとラオスをへてインドへ出国し、最終的にはアメリカへ移住した。彼らの移住経路は非常にユニークであり、今後さらに調査していきたい。

補足：国連難民高等弁務官事務所文書館の利用法

国連難民高等弁務官事務所文書館(Archives of the United Nations High Commissioner for Refugees)はスイス連邦ジュネーブ市のUNHCR本部ビル内部に所在している。すべての調査者に公開されている。

¹⁷ Scott Moss "A History of the Tolstoy Foundation 1939-1989"
http://www.tolstoyfoundation.org/pdfs/tf_history_s-moss_.pdf

UNHCR の世界各地の事務所が日常業務中に作成した手紙、FAX、電子メール、写真、音声録音、ビデオテープ、ポスターが収蔵されている。

フォンドの細目、利用方法等は UNHCR のホームページ¹⁸で公開されている。

一般の資料は作成から 20 年後、難民個人のケースファイル、難民登録申請書、難民個人の取扱いにかかわる資料は作成から 75 年後に開示される。2025 年以降現在開示されない資料の公開が期待される。

与えられた申込書にしたがって開示請求をすると、開示可能な資料が選別され、請求者に与えられる。そのなかから必要な部分について複写の請求をするという手順で複写を入手できる。

事前に電子メールで予約を入れる必要がある。利用時間は月曜から金曜の 9:00-17:00。コピー代(1 枚 0.33 米ドル)以外の費用は不要。

¹⁸ <http://www.unhcr.org/cgi-bin/texis/vtx/research?id=43e32a7a2>